



# 府中かんきょう 市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会  
2023年春号 4月12日(水)発行 通巻88号  
発行人 小西 信生 (府中市四谷6-19-20)  
TEL 080-5646-5524  
編集人 葛西 利武  
(府中市市民活動センタープラッツ登録団体)

市村農園  
小林農園

## 援農ボランティア活動の、いま！

牧原文男

### 今年こそ、収穫祭の再開を！

援農ボランティア活動は、市村農園主(押立町)と小林農園主(南町)及び会員の皆様との協力で、諸先輩の培われた意志を持って継承されていることを、ここに報告します。

新型コロナウイルス感染症対策は緩和されるようですが、終息宣言されておらず、ウイルスは変異しながら生き残っているとも言われていますので、基本的予防に注意しながら楽しい活動を継続していきたいと思っています。

そのなかで、年一回の収穫祭は農園主と会員の親睦を図る楽しいイベントですが、このところ残念ながらコロナ禍で中止しています。しかし、今年こそはなんとか復活してほしいものです。

### 現在の活動状況

現在の活動者は18名(令和4年度は5班構成)で、高齢者の比率は高いですが皆さん元気いっぱい活動しております。また、昨年から若い2名の方も活動と家族サービスを両立させて、元気に参加されています。作業時間は2時間(2~3回/月)、午前中の作業なので参加しやすいと思います。

作業内容は露地畑とハウス畑があり、草取りと収穫を終えた野菜の撤去作業等が主です。時期によっては苗床が準備された後に種蒔き・苗の定植等があります。撤去作業では運がよければトマト、オクラ、ピーマン等の収穫体験や葉物野菜を頂けるのも楽しみのひとつで喜ばれています。

### 楽しく、健康にもよいエンノウ

夏のハウス内は高温環境になるので換気して水分補給をこまめにとり、休憩を増やして体調管理に留意しています。また、冬の露地畑は寒いのでハウス内での作業が主となります。雨天や悪天候の場合は班長が農園主と相談して、中止等の判断を行います。

援農活動は収穫の楽しみや雨天時の辛いこともありませんが、畑で土いじりや体を動かすことで日頃の運動不足やストレス解消ができるので農作業が好き、または援農に興味ある方の参加をお待ちしています。よろしかったら一緒に活動しませんか。

### 最後に、2農園での活動例を写真で示す

(1)市村農園は、甥っ子との二人体制が定着されて若さと活気があり、従来の農業を継承されています。



ハウス内のダイコン畑の草取り作業。土が硬くて少し難儀した



草取りが終了すると散水開始 = いずれも2023年2月19日撮影

(2)小林農園は、昨年に近代化ハウスが建造されてトマトの溶液栽培(JA)を稼働されています。



溶液栽培で収穫を終えたミニトマトの撤去作業中



撤去後の様子。ちなみに初めての作業で、養分供給ホースを切らないように注意した = いずれも2023年2月2日撮影

## 西府崖線

## 第9回 野鳥観察会（兼野鳥生態系調査）

佐藤智恵子

☆2023年1月14日(土) 9:00～

あいにくの曇天ながら、天気予報がまさかの19度！ということでしたが、実際は気温は上がりません……。逆に暑くなくてよかったのかもしれません。

☆ハケ下のあずまやに、一般+会員の計13人が集合

ここでは早速、高い木の梢に鳥たちがいて、しばし観察(写真㊦)。シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガが軽快に飛び回っていました。



空を見上げる参加者



シウビタキ♂

3mほどの距離で見られたので、橙色の胸と頭や羽の黒と白が映えた色合いがよく見えて、盛りあがりしました。

☆ハケ上でキジバト、ムクドリ(飛び方で判別)を観察

ハケ上で湧水付近には、先ほどから声だけでなかなか姿を見ることができなかったツグミが見られました。

☆西府文化センター隣の広場に到着し、11時頃終了。遠くの野鳥は、影絵のようだった……

ほかに、ハクセキレイ、ハシボソガラス、西府文化センター付近にアオジが観察できたそうです。曇りの日は遠くの野鳥を見るのに難しく、どの鳥を見ても影絵のようで判別が大変難しかったのですが、田中さんは、鳴き声のみならず、習性や尾の長短、飛び方で鳥種を判別されていて驚きです。

☆わき水方面へ出発

歩道を、キジバト、カワラバト(外来種)がトコトコ歩いていました。途中、青谷さん(※)に崖線の地層の説明をしていただき、崖の下方に見えている岩が100万年前の地層層ということを知りました。地層層としてあるのは知っていましたが、まさかいつも普通に見えているとは思っておらず驚きました。※一般参加者、3面に感想文も掲載。

このとき、農閑期のため多摩川から用水路への通水がなく、水が少ないからとのことでした。わき水からの水は少しあるものの、水辺が少ないことも、鳥が少ない大きな理由と思われるそうです。

☆たしかに、わき水付近には鳥の声が多かった

わき水付近にはキセキレイ(写真㊦)とカワラバトが歩いており、ヒヨドリ、ハシボソガラスが梢のほうにいました。ツグミの声がするとのことでしたが、姿は見えず……。大山道方面へ歩く途中、高い枝になにか丸いものがあり…なんだろう？？？ということになっていましたら、案内人の田中香代子さんによりますと……、「キジバトのおしり」ということでした。曇り空で、ちょうど後ろの下から見上げたので、まんまるの影に見えていたのです。

大山道手前の開けたあたりには、いつもならたくさん鳥がいるそうなのですが、用水路に水がないせいか、鳥の声も姿もほとんど静かでした。かろうじて遠くの樹冠にシメがいました。

☆大山道の坂道を上がり、ハケ上にでて、

今度は逆方向へ歩いて西府駅方面へ戻る住宅の木にいたのはジョウビタキのオス(写真㊦㊩)。



キセキレイ

いつも気がつかないだけで、知識があれば「普段見かけない鳥」も街なかにはいるのに気付けるかもしれないですね。樹冠を見上げたり、双眼鏡を覗いたり、色々な鳥の声に耳を澄ませて、普段意識しないでいる鳥たちに夢中な時間を過ごせました。観察された野鳥は14種+外来種1の計15種でした。

☆最後に

解散後、待っていていたかのようにポツポツと雨が降り出し、無事に会が終わってほっとしました。

## ハケの地層も観察

## 野鳥観察会に参加して

青谷 知己 (アオタニトモキ)

- ・「新府中市史(自然編)」の編集委員
- ・昨年3月まで都立府中高等学校の先生
- ・東京都あきる野市在住

「新府中市史(自然編)」の中のコラムに市民の会を紹介する準備をする中で、実際の活動に参加してみたいと思い、のぞかせていただきました。

今回の観察が、西府崖線周辺でしたので、どれほど野鳥が見られるのか半信半疑の面もありましたが、2時間弱でエナガやシメ、メジロ、ジョウビタキなど15種も確認できて少し驚きました。小さな緑地ですが、野鳥たちにとっては大切な中継地や休息場所、そして餌場や繁殖地にもなっているようです。この緑地の大切さを改めて感じることができました。



飛入りでしたが、用水沿いに見えている泥層の前で、府中崖線(ハケ)に見えている地層について少しお話させていただきました。西府町湧水周辺は、実は府中市内では唯一といっているほど、崖線の地層が観察でき、大地の生い立ちを知る場所として貴重な場所です。



ジョウビタキ

水路のすぐ上に露出している泥層は上総層群の連光寺層で、およそ150万年前の浅海底に堆積した地層です。よく観察すると生痕化石が見えています。その上に重なる5~6mの厚い礫層は、数万年前の多摩川が運んできた立川礫層です。崖の上部には赤茶色をした2mほどの赤土がのっています。多摩川が今の高さに下がったのち、古富士火山などからの火山灰が積もったローム層です。

西府町湧水は泥層と礫層の間から湧き出しています。この崖線の緑化保全を担当している方が、壁面は崩れやすく下草も育ちにくいと話されていましたが、これは、壁の中間に厚い礫層が存在するためです。



あずまやでの自己紹介から始まって、野鳥を探し、湧水や地層を見ながら、大山道から崖線の上に沿って戻ってきました。崖線の樹木の種類や巣箱の様子、府中かんきょう市民の会の様子などもたくさん伺えて、楽しい観察会でした。



府中崖線(ハケ)の地層についてのお話し

青谷さんは右から2人目、黒い服を着衣。左上は青谷さんの写真

府中市立  
第五小学校 校門前

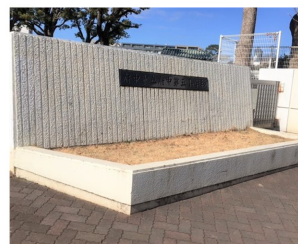
## 花壇の植栽実施

小西 信生

学校側からの依頼で、市立第五小学校正門のスペースに花壇を設置しました。学校から相談があったのは、3学期の環境学習(バードウォッチング)が終わった後1月でした。

当会でも市民花壇は周辺で行なっていますが、今回は「ひな草の会」と協働で行なうこととしました。「ひな草の会」の代表を含むメンバーが五小の学区内に何人もお住まいであること、花壇活動は「ひな草の会さん」の主な活動であること、当会だけで行なうより市民協働の趣旨を反映させるにはいい事例と判断したことによります。

その後、学校側と市民団体側の協議(2月3日)を経て、2月9日、11日の2日間で作業しました。植栽の作業は、ひな草の会会員、当会会員の他、11



④花壇作業中、「ひな草の会」の皆さん。⑤花壇ピオー、⑥花壇アフター



日は花を届けていただいた花屋さん兼PTA会長さんも参加して、それぞれ1時間強で終了しました。

植えた花は、プリムラ・ビオラ・アリッサム・チューリップで合計200株ほどです。チューリップは芽の状態ですが、他は既に花を咲かせており、多分卒業式・入学式には花を添えることができそうで、卒業生や新入生は校門の前で記念写真を撮ることが多いようすから、いい写真が撮れることを期待したいものです。

## 農地・農業保存研究会 の活動報告

# 学校給食への地場産農産物 納入率拡大を通じて農業振興を！

伊藤久雄

農地・農業保存研究会は、府中かんきょう市民の会の中に設置している活動で、農地・農業の保存に関心のある会員で取り組んでいる。2年ほど前までは農業公園の設置・運営に向けて、市に対して要請や意見交換などを行い、農業公園のあり方や運営について、市民の意見を反映すべく取り組んだ。

しかし、農業公園は開設されたものの、運営は株式会社アグリメディアに委託されるなど、私たちの活動は力及ばずであった。



## 今年度から 学校給食への地場産農産物納入をテーマに

そこで今年度からは、活動の中心は「学校給食への地場産農産物納入率拡大を通じて農業振興を図る」ことに移っている。このテーマは、国も（農林水産省）も学校・保育所等での食育の推進の一環として「地産地消の推進」を掲げ、学校給食における地場産物及び国産食材の使用割合の公表も実施している。2021年度の実績（金額ベース）は全国平均56.0%、東京都6.8%であった。しかし農水省は都市部でも目標25%を目指している。

また最近ではマスコミも都市農業と学校給食を関連づける報道が増えている。最近では東京新聞が2月18日の夕刊で千葉県いすみ市を「100%有機米の給食のまち」として取り上げ、翌日には日曜版で『オーガニック給食一働き始めた地域農業再生の鍵』と題する特集を組んで評判を呼んでいる。記事は下記を参照されたい。

<大図解>オーガニック給食 (No.1599)

東京新聞 (2023年2月19日)

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/231647>

## 市内学校給食関連団体などとの 意見交換を実施

今年度は市内の学校給食に関連する団体等との意見交換などを実施した。

- ・府中市学校給食センターの見学会と意見交換
- ・府中市農政係の出前講座  
(第4次府中市農業振興計画について)
- ・JAマイズとの意見交換

これらの意見交換などを通じて明らかになったのは、小学校と中学校を統合した新しい給食センター発足の直後は地場産納入率が3%台に低迷していたのが、関連団体の取り組みによって8%台まで回復してきたものの、

給食センター見学会の写真(2022年7月6日)

①2階の見学コースから調理室をみる ②調理室の様子  
③試食会の様子 ④試食会メニュー

より一層の取り組みがないと納入率の上昇は期待できないという現実である。

下表をみて頂きたい。2020年度の地場産納入率は、府中市は調布市と並んで最下位なのである。目標8%も、施策評価シート「教育の充実」に記載されているだけで、総合計画や農業振興計画、食育計画等には目標は明記されていない。

## 多摩地域自治体の学校給食への地場産納入率

| 自治体名 | 食材市内産目標<br>2020年度 | 食材市内産達成率2020年度<br>(単位:%) |
|------|-------------------|--------------------------|
| 八王子市 | 30%以上             | 28.3                     |
| 武蔵野市 | 35%               | 18.9                     |
| 三鷹市  | 30%               | 15.3                     |
| 府中市  | 8%                | 7.6                      |
| 調布市  | 目標設定なし            | 5.84                     |
| 小平市  | 30%               | 小学校30.1 中学校32.8          |
| 日野市  | 25%以上             | 31.8                     |
| 国分寺市 | 30%以上             | 小学校のみ 27.9               |
| 国立市  | 20%               | 17.7                     |
| 狛江市  | 目標設定なし            | 小学校14.1 中学校8.7           |

※松壽氏作成の一覧表を一部加筆し修正(伊藤)

## 2023年度も活動を継続

2023年度も、JAマイズや出荷の会等との意見交換を継続しながら、市に対して改めて「要請書」を取りまとめるなどの活動を継続していく予定である。2023年度は、農地・農業保存研究会にも新たな会員が加わることであり、若い会員の意見を取り入れながら活動をすすめたいと考えている。新たな会員の参加を歓迎します。

## 公園清掃

四季折々の景色も楽しみな  
押立町緑地の清掃活動

伊藤久雄

押立町緑地は、京王線武蔵野台駅から車返団地を通り抜け、徒歩10分程度のところにある。ここは、府中かんきょう市民の会が公園清掃を市から受託している4か所のうちの1つだ。また、まちなかきらら(府中市インフラ管理ボランティア制度)の活動として、花壇の管理も行っている。

緑地と名づけられているように、築山(ツキヤマ)があり、木々も多く、近所の保育園の子どもたちが毎週通う。小さな子どもたちには最高の場所になっている。私は昨年の4月から清掃活動に参加したので、ちょうど1年になる。そこで1年の感想を書くことにした。



押立町緑地。⑤⑥は築山に咲く水仙

春から夏にかけては雑草取り結構大変である。特に夏場は暑く、1時間もしゃがんで動いていると腰にくる。秋は

落ち葉集めである。市は、緑のリサイクルを積極的に進めるため、「落ち葉の銀行」を運営している。これは、登録市民団体が公園等で収集した落ち葉を預金とみなし、市が回収した上で腐葉土化するものだ。



落ち葉の銀行用の「落ち葉」

翌年、預金した落ち葉の量に合わせて、腐葉土を引き出すことができる制度となっている。落ち葉は専用の袋に入れて保管しておくとしが回収する。

落ち葉は晴れた日が続くと集めやすいが、前日が雨だと葉が重く、砂も離れないので重労働だった。しかし築山は、四季折々の姿を楽しませてくれる。1月第3週の月曜日は、水仙が満開で目の保養になった。まだ1年の活動に過ぎないが、その時々景色も楽しみだ。

## 会員随想

## 里帰り旅行

竹田勇

昨年10月、私たち夫婦の古里である奈良県へのツアーを思い立った。ちなみに我々は、夫婦会員でもある。妻は奈良市内の出身であるが、私は生駒郡安堵村(アンドム)で生まれ育ち、ここから小学校、中学校、高校、大学へと通った。私は幸い80代後半になっても元気であるが、コロナ禍で同窓会が休止となり急に里帰りがしたくなった。すると、鎌倉に住む息子まで同行すると言いだし、さらに都心に住む妻の妹も同行することになった。

興福寺の5重の塔  
猿沢池の水面に映る総勢10人  
中華料理店での歓迎会場

27日、東京駅発9:22分の新幹線に乗り、小田原で息子と合流し、京都で近鉄に乗り換え、新大宮駅に到着した。そこで、みんなと奈良観光をする。3条通りは道幅が広くなり、興福寺の5重の塔が水面に映る猿沢池、鹿と戯れる観光客等を楽しみながら歓迎会場(近鉄奈良駅舎)に着く。中華料理店を借り切った宴会である。そこには

総勢10人が集まり、自己紹介、歓迎の挨拶などで大いに親交を深めた。やはり、古里は遠くにありて思うのではなく、時々帰省すべきものと痛感した。お酒が飲めない私も、少々口にして大変楽しい宴だった。

JR関西線法隆寺駅での  
竹田(夫妻)

その夜はホテル日航奈良に宿泊した。翌朝、JR関西線で法隆寺駅下車し、西安堵へ向かう。安堵村は、聖徳太子が自宅から都のあった飛鳥まで通う途上にあったと伝えられている。ちなみに、竹田の家の前で井戸水を補給したと村史にも記されている。

バスで安堵村の竹田家に着くと、兄(90歳)と次男坊に迎えられた。しかし、私の子どもの頃の風景と大きく様変わりした古里の風景には、時の流れを感じた。

翌日、奈良市内に戻り、高畑町の新薬師寺へお参りした。聖武天皇の御妃の光明皇后によって創立され、十二神将の異なる表情の立像が素晴らしい。その後春日大社に立寄り、29日に無事に帰宅した。

**<編集人のつぶやき>** 今年、米寿(88歳)。当会で実際に活動している方で、一番のご高齢であろう。職を60歳でリタイア後、JICA(国際協力機構)で世界各国を巡り、当会に入会した。主な活動歴は援農ボランティア、田んぼの学校、レンゲ祭りと現在も活躍の府中町農園塾。ここ数年ある飲み会で一緒にいるが、「お酒が飲めないのに参加するの?」と聞いたところ「私は人間が好きなんだ!」とのたまう。そのとき私は、これが健康の「素」なんだろうと感じた。最後に余談だが、22年前の2001年7月1日に創刊した本会報(季刊)も、今号で88号となる。

## 第五小学校、四谷小学校 3学期環境学習

## バードウォッチング実施

小西信生

### 第五小の自然探検

五小は自然探検の名称で実施し、1学期2学期同様、観察場所は小学校周辺と西府崖線緑地です。

参加児童は3年生の4クラス135人。各クラスをさらに野草・昆虫・樹木グループの3班に分けて、大きな声を出さないようにしながら観察しました。



1クラスは午前中の2時限で、1月13日、17日に行ないました。当会から8人、PTAからも交通安全確保などのため各クラス3人づつの参加をいただきました。

観察できた野鳥は各クラスで10～12種、4クラスで20種になりました。ヒヨドリやムクドリ、ツグミ、キジバト、ハクセキレイは全クラスで観察でき、今年度はエナガ、コゲラ、ウグイス、ジョウビタキの観察ができたクラスもありました。

逆にスズメは観察されませんでした。最も一般的な野鳥の一種ですが、観察できなかったのはたまたまか、個体数は減少しているのかもしれませんが。

西府崖線のバードウォッチングの他に、西府町湧水も1・2・3学期連続で観察し、体感しました。1月中旬の気温は10℃前後だったのに対して、湧水の水温は18℃と高めです。

1・2学期も水に触れてその冷たさを体感してもらいましたが、3学期は暖かいと、子どもも同伴のPTA、教員みんなが感じていました。

### 2022年度の環境学習

環境学習は第五小学校は7年連続、四谷小学校は4年連続になります。

昨年度は新型コロナウイルス感染症対応で、四谷小はまん延防止等重点措置が2022年1月21日に発出され、24日、26日の環境学習は中止になりましたが、2023年の

### 四谷小の多摩川探検

四谷小は多摩川探検の名称で実施し、観察場所は学校前の四谷橋歩道橋と往復の小学校周辺です。

参加児童は3年生の4クラス107人。各クラスごとに野鳥観察を行ないました。橋の欄干に並んで観察できる環境であることから、3mほどの歩道部分もあるため、こうした観察を安全に行なうことが可能になっています。

1クラスは午前中の2時限で、1月24日、25日に行ないました。当会から6人の参加をいただきました。観察できた野鳥は各クラスで17～18種、4クラスでは24種になりました。ハクセキレイ・セグロセキレイ・コサギ・ダイサギ・アオサギ・マガモ・コガモ・オオバン・カワウ・カワラバトは全クラスで観察できました。空をゆったりと飛ぶトビ・オオタカ・ミサゴも観察できました。

水鳥が多く観察できる場所でしたので、観察できる野鳥の種類は五小と比較して豊富でした。実施時期が1月下旬としたことにもよりますが、観察日時の気温は府中アメダスの数値で、24日は4℃～8℃、翌25日はマイナス1℃～1℃となっており、橋の上の観察でしたので、1～2℃はさらに寒かったと考えられます。

子どもは暖かい服装とは言え、手袋をしてこなかった子もいましたが、みなバードウォッチングを楽しめたようです。当会スタッフの一部(2人)は約4時間橋の上で、がんばっていただきました。頭がさがります。



今年はいずれも開催できました。

来年度(2023年4月～)も、ほぼ同様のスケジュールで行なう予定で現在は下準備中です。会員のみなさんは当然、毎年1歳づつ年を取っていきます。健康に留意し、ゆっくりと確実に活動を継続できれば、と考えています。